

社会貢献活動

明治安田生命は、企業市民として、真に豊かな社会の実現に向けて、広く社会貢献活動に取り組んでいます。その取組みにおいては、会社の実施する事業、財団等の実施する事業および従業員参加により推進する事業の三つを柱と位置付けています。

※2013年度の活動実績については、活動終了後、掲載いたします。

子どもの健全な育成をめざして

次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献してまいります。

地域社会への貢献をめざして

地域の住民のひとりである従業員もボランティア活動を通して地域の活動に参画しています。

関連財団等の活動

当社の関連財団等も、幅広い社会貢献活動をしています。

子どもの健全な育成をめざして

子どもの明日 応援プロジェクト

お客さまの「家族への思い」を支えることが生命保険会社ならではの社会貢献と考え、「子どもの明日 応援プロジェクト」を通じ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに取り組んでいます。

「子どもの命・安全を守る」 地域貢献活動



従業員が担当地域等での営業活動中に不審者等を見かけた場合は、最寄りの警察に連絡を行なう等活動を全国で展開しています。

地域安全マップづくり教室



子どもたちが、犯罪が起きやすい「場所」を自ら見極め、危険を回避できるようにするための教室を全国で開催しています。

「愛と平和のチャリティーコンサート」と 「未来を奏でる教室」



「愛と平和のチャリティーコンサート」と小・中学校での音楽授業「未来を奏でる教室」を開催しています。チャリティー募金は(公社)日本フィランソロピー協会を通じ全国各地のNPO等に寄付しています。

海の環境工作教室



従業員がボランティアで海岸清掃を行ない、収集したゴミ等の漂着物でアート作品を制作する海の環境工作教室を実施しています。

ふれあいコンサート



ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげきさんが全国各地の特別支援学校を訪問、楽しい手作りコンサートをお届けします。

あしながチャリティー&ウォーク



当社役職員が親をなくした子どもたちの「あしながさん」となって、ウォーキングやチャリティー募金を通じて、子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を行なっています。

「黄色いワッペン」の贈呈



新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈を行なっています。

チャリティーイベント



コンサート等のチャリティーイベントを開催し、会場でのチャリティー募金をアジアの子どもへの支援活動等に寄付しています。

Hello! Baby 奨学金プログラム



少子化社会対策に資する社会貢献活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度」を支援しています。

全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛



「全国小中学校環境教育研究会」が主催する絵画コンクールに協賛しています。

三菱アジア子ども絵日記フェスタ



三菱広報委員会で実施している「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」に参画しています。

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では、地域・社会貢献活動に継続的に取り組むなか、特に2008年度からは、「子どもの健全育成への貢献」をCSR・社会貢献活動の重点分野と位置づけ、さまざまな活動を全国で実施してまいりました。2012年度からはさらに、本活動展開が5年目を迎えることをふまえ、「子どもの健全育成」に向けた活動の総称を「子どもの明日 応援プロジェクト」と定め、改めて、子どもの健やかな成長を総合的に応援する活動として展開しています。

「子どもの明日 応援プロジェクト」を推進する背景

お客さまが私たちと保険契約を結ぶ背景には「ご家族への思い」があり、こうしたお客さまの「家族愛」を理解して大切な子どもたちを守る手助けをすることこそ、生命保険会社にふさわしい社会貢献活動だと考えています。その思いから、私たちは「子どもの明日 応援プロジェクト」を通じ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献していきたいと考えています。

「子どもの明日 応援プロジェクト」の全体像

大学・高校 専門学校生等					
中学生	「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動 「地域安全マップづくり教室」 新小学一年生への黄色いワッペン贈呈	特別支援学校の子どもたちに生の音楽を届ける「ふれあいコンサート」	音楽授業「未来を奏でる教室」	海の環境工作教室 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール協賛	親をなくした子どもたちの進学と心のケア支援「あしながチャリティー&ワーク」
小学生					
就学前 出産前	助産師育成支援「Hello! Baby奨学金プログラム」				全国の支社・営業所 法人部 本社各部 関連会社 それぞれがNPOや自治体等と連携して行なう地域貢献活動
	子どもの命・安全を守る	音楽を通じた情操教育	環境意識の醸成	遺児の進学支援	その他各種の支援

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動

子どもの明日 応援プロジェクト

子どもたちが登下校中に事件に遭う事態を防ぐために、登下校の時間帯に地域で営業活動をしている当社としてできることはないか。そのような思いから、2006年6月から明治安田生命労働組合と連携して「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動に取り組んでいます。

この活動で、MYライフプランアドバイザーは、地域で営業活動をするときにネームタグを携行して地域防犯への意識を高めています。これには犯罪行為へのけん制効果も期待されています。また、不測の事態に備えて防犯笛を携行し、危険を察知した場合などにはただちに地域行政や近隣へ情報を伝達して連携できる態勢をとっています。



ネームタグ・防犯笛

“安心安全の輪を広げよう”をテーマに子どもを犯罪や災害から守る地域づくりをめざす「だいじょうぶキャンペーン(※)」に2007年10月から協賛しています。

このキャンペーンの一環として、2008年から当社が主催して支社での「地域安全マップづくり教室」を実施しています。

▶ 「地域安全マップづくり教室」P93

※だいじょうぶキャンペーン

「だいじょうぶキャンペーン実行委員会」(会長 國松孝次<元警察庁長官、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク理事長>)が主催するキャンペーンです。



労使一体による地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たしていきたいと考えています

明治安田生命労働組合

この活動は、上部団体である生保労連の呼びかけのもと、「子どもの命・安全を守るために地域への貢献を」という趣旨で、2006年6月以降、会社と明治安田生命労働組合が一体となって推進しており、子どもたちの登下校時に地域で営業活動を行なう私たちにふさわしい貢献活動と考えています。

今後、当組合としても、地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たせるよう積極的に推進・支援していきたいと考えています。

地域安全マップづくり教室

子どもの明日 応援プロジェクト

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動を発展させて、2008年から「地域安全マップづくり教室」を開催しています(後援: だじょうぶキャンペーン実行委員会、協力: NPO法人地域安全マップ協会)。

「地域安全マップづくり」は「犯罪機会論(※)」を応用した教育プログラムであり、犯罪が起きやすい「場所」を子どもたちが自ら見極め、危険を回避できるようにしようというものです。考案者である立正大学の小宮信夫教授らが、全国各地で教育機関や警察と連携しながら普及を進めています。

当社が主催する教室では、小宮教授を講師に招いて、親子での参加を公募。参加者は、講義とフィールドワーク、マップづくりを通して「危険な場所」を避けるための考え方を学びます。「危険な場所」の説明が「入りやすい」「見えにくい」という二つのキーワードでなされ、子どもたちにも容易に理解できます。

また、子どもたちがマップづくりに取り組んでいる時間を利用して、保護者の方向けのセミナーを開催しています。

これからも、地域の安全について親子が一緒に考え、学ぶ機会として、引き続き全国各地で開催していきます。

※犯罪機会論

人に犯罪の機会を与えないことによって犯罪を未然に防止しようとする考え方。犯罪傾向のある人の人格を改善しようとする「犯罪原因論」の限界を認識した欧米諸国で主流となっています。



小宮教授による講義の様子



フィールドワークの様子



マップづくりの様子



完成したマップ



保護者向けセミナーの様子

トピックス

2011年12月に、東京都立大塚ろう学校(特別支援学校)において、当社では初めて、聴覚に障がいのある子どものために、手話による地域安全マップづくり教室を開催しました。

小宮教授の講義やフィールドワークでの指導を、ろう学校の先生が手話の同時通訳を行なう形で進められるなか、子どもたちはクイズにも積極的に参加し、マップづくりと発表まで、みんなで力をあわせながら楽しい時間を過ごしました。



手話の同時通訳による講義とフィールドワーク

また、初めての試みとして、小宮教授による「子どもと地域の安全セミナー」を2011年6月に開催しました。

地域の安全と子どもの防犯について、保護者や関係者の方により広く知っていただくためのセミナーで、参加者からは、「防犯に対する従来の視点との違いが分かった」、「子どもの安全対策について、分かっていたようで実は分かっていなかった」などの声が寄せられました。



長崎支社の「子どもと地域の安全セミナー」

参加者の声

参加してからは、親子で景色を見て危険な場所を判断できるようになりました。

「地域安全マップ」がどんなものなのか今まで全く知りませんでしたが、誘っていただき参加することにしました。普段何気なく通っている道や、子どもを遊ばせていた公園も危険な場所がたくさんあることを知り、教えていただいて本当によかったです。参加してからは、子どもと「ここは危険だね」と話すことが多く、子どもたちも一日でしっかり身につけることが出来たようです。実際に外の景色を見て学習するところや、子どもたちが楽しみながら取り組めるところもこの教室のよい点だなと思いました。



青森市在住
太田 和歌さん・
葵ちゃん・霞ちゃん親子

講師の方の声

すべての親子に正しい防犯の知識と技能を届けてください

子どもの防犯力を高めると公認されている地域安全マップ。しかし、その普及率は2割程度にすぎず、作り方を間違えたマップが多数出回っています。例えば、犯罪が起きた場所を書かせても未来の犯罪を予測する力は高まりません。また、変な人がいた場所を書かせると人間不信に陥らせてしまいます。

明治安田生命主催の「地域安全マップづくり教室」は、こうした現状を打開するものです。この教室のおかげで、これまで地域安全マップの本当の姿にまったく触れることができなかった親子にも、正しい作り方を学ぶ機会が届くようになりました。これからも、すべての親子に正しい防犯知識・技能が届くように、この教室を全国各地で開催していただきたいと望んでいます。



立正大学文学部
社会学科教授
(社会学博士)
小宮 信夫 氏

「地域安全マップづくり教室」が「キッズデザイン賞【優秀賞】」を受賞

NPOキッズデザイン協議会主催、経済産業省後援による「第4回キッズデザイン賞(2010年)」において、「地域安全マップづくり教室」が、生命保険会社の取組みとしては初めて、「優秀賞(キッズセーフティ部門) キッズデザイン協議会会長賞」を受賞しました。

この受賞は、「安全マップづくりという行為を通じて、見過ごしがちな自分の住む街の細部(危険)を知ることができる意義のある活動であり、さまざまな社会学習への展開の可能性を感じさせる」と評価をされたものです。

「キッズデザイン賞」とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の3つを顕彰する制度です。子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動など幅広い分野を表彰の対象としており、受賞作品には、「キッズデザインマーク」の使用が認められます。



「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを毎年開催しています。また、コンサートとあわせて開催地近郊の小・中学校にて、作曲家 三枝成彰氏による音楽授業を開催し、音楽を通じて子どもたちの情操教育のお役に立てるよう取り組んでいます。

2012年度は全国各地で4回開催しました

2009年度より開催数・地域を拡大して実施している「愛と平和のチャリティーコンサート」。2012年度は栃木県、静岡県、奈良県、愛媛県の4ヵ所で開催しました。ご来場いただいたお客さまには本コンサートの音楽監督である三枝成彰氏による楽曲解説とソリストによる演奏をお楽しみいただきました。



チャリティー募金は全国各地のNPO団体に寄付を行ないます

各会場にて実施しているチャリティー募金は、4会場合計で1,320,109円となりました。このチャリティー募金は、公益社団法人日本フィランソロピー協会を通じ、子どもの健全育成や環境保全等に取り組んでいる全国のNPO等へ寄付します。2012年度は昨年に引き続き、東日本大震災で被災した子どもたちの支援のために活動しているNPO団体へ寄付しました。

<寄付を行なったNPO>

活動地域	寄付先
岩手県	ハックの家
岩手県	いわて子育てネット
宮城県	冒険あそび場せんたい・みやぎネットワーク
宮城県	せんたいファミリーサポート・ネットワーク
福島県	ビーンズふくしま
福島県	あぶくまエヌエスネット

三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」

愛と平和のチャリティーコンサートの公演とあわせて開催地近郊の小・中学校にて、三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」を実施しました。クラシック音楽の特徴や歴史を解説しながら展開する授業は、子どもたちの音楽そのものに対する興味・関心を呼び起こす内容となっています。



2012年度に音楽授業を開催した学校

開催日	学校名	学年	所在地
2012年9月13日	伏見南小学校	4～6年生	奈良県奈良市
2012年9月27日	お台場学園 港陽小学校	3～6年生	東京都港区
2012年10月12日	晃宝小学校	4～6年生	栃木県宇都宮市
2012年10月18日	篠原小学校	6年生	静岡県浜松市
2012年11月15日	拓南中学校	全学年	愛媛県松山市

※9月27日の音楽授業は前日のチャリティーコンサートは開催せず音楽授業のみの実施。

なお、「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」は2012年度文化庁の後援をいただいております。

海の環境工作教室

子どもの明日 応援プロジェクト

「海の環境工作教室」の開催

従業員や家族、地域の方々がボランティアで海岸清掃を行ない、清掃を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミなどの漂着物等を使ってアート作品を制作する「海の環境工作教室」を開催しています。この工作教室は、NPO日本渚の美術協会(※)の協力を得て、2007年にスタートしたもので、子どもたちが自然に対する思いを育む場として実施しています。2012年度は全国4ヵ所で開催し、528人が参加しました。収集したゴミ等の量は合計で5,688kgに達しました。工作教室では”私の好きな生きもの”をテーマとして260作品が生まれました。



海の環境工作教室 開催状況(2012年)

開催日	会場	所在地	参加人数
2012年 5月	新潟市関屋浜海岸	新潟県新潟市	141人
2012年 6月	蒲郡市丸山海岸	愛知県蒲郡市	196人
2012年 6月	葛西臨海公園	東京都江戸川区	76人
2012年 10月	湯河原町吉浜海岸	神奈川県足柄下郡湯河原町	115人

※NPO日本渚の美術協会は海岸漂着物を「海からの贈り物」と称し、アート創作を手段として海浜美化啓発活動を行なっている特定非営利活動法人。

なお、8月5日には小学生の親子14組35人が参加して夏休み親子環境工作教室を開催しました。フォトフレームに久米島の砂や各地から集めた貝殻やシーグラスを張りつけ、「私の好きな生きもの」をフレームの中に飾りました。



思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えることを願っています

今、海がゴミの最終到達地になったようで「海の悲鳴」を感じます。私たちは「美しい海を次世代に引き継ぐために」海岸清掃とともに、漂着物を利用したアート創作を手法として、海の美化啓発活動をしています。この活動を通じて、海に対する優しい思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えてくれることを願っています。



NPO日本渚の美術協会
会長
本間 清 氏

第6回「シーボーンアート展」の開催と「私の好きな生きもの」コンテストの実施

シーボーンアート展は海岸の清掃活動を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミ等の漂着物を材料として制作したアート作品を展示し、海の環境美化を訴えるものです。

2012年7月29日～8月25日にかけて、第6回シーボーンアート展「海から来た仲間たち」を丸の内 MY PLAZAで開催しました。会場ではNPO日本渚の美術協会の会員が制作したシーボーンアート作品が展示されたほか、2012年5月～6月に開催した海の環境工作教室で当社の従業員・家族や地域の方々々が制作した作品の中から選ばれた作品70点を対象に、“海から来た仲間たち「わたしの好きな生きもの」コンテスト”を実施しました。



グランプリ 準グランプリ NPO賞

👑 グランプリ

酒井 萌季さん(小3) 蒲郡市丸山海岸会場



ペンギン

本人のメッセージ

ゴミでこのような作品を作成するのは初めてで、とても良い経験ができました。

日本渚の美術協会からのコメント

自然素材を上手に活用したナチュラルで心温まる作品です。枯れススキを使って羽毛のフワフワ感が表現されて作品にぬくもり感を加えています。目ぢからも有り今にも動き出しそうですネ。

👑 準グランプリ

深谷 萌さん(小6) 新潟市関屋浜海岸会場



ねこのたま

本人のメッセージ

私はこのうきを見つけた時、ねこっぽく見えたのでねこに使いました。くちびるはおもしろい石があったので使いました。

日本渚の美術協会からのコメント

大きな浮き球を使った大変ダイナミックな作品ですネ。作者の心の中にある「たまちゃん」の大きな存在感が窺われます。一緒に楽しそうに遊んでいる光景が目には浮かびます。

👑 準グランプリ

中村 菜子さん(小5) 蒲郡市丸山海岸会場



大好きな人

本人のメッセージ

ペットボトルの形が人の形に似ていて人間をつくってみようと思いました。パーツが1つひとつできあがっていくのはとても楽しかったです。

日本渚の美術協会からのコメント

愛情たっぷりでもともと微笑ましい作品です。お子さんとお母さんでしょうか？ご両親でしょうか？素敵な家族愛が表現されています。細部まで気配りが施された作品でストーリー性も感じることが出来ます。

👑 準グランプリ

今村 海音さん(3才) 東京葛西臨海公園会場



葛西メルヘン水族館

本人のメッセージ

「だってお魚が好きだから〜」。カラフルな魚や気泡、ツノを生やした貝などでメルヘンチックな海中の世界を表現しました。

日本渚の美術協会からのコメント

漂着ゴミを有効に使いジオラマ性抜群の作品です。色使いがとてもカラフルで、水族館の生き物たちが楽しそうに暮らしている様子がイメージ豊かに表現されていますネ。

NPO 日本渚の美術協会賞

三上 晴翔さん(小1) 東京葛西臨海公園会場



ウマヅラの鳥

本人のメッセージ

本当はうちで飼っているインコを作ろうと思ったのですが、作っているうちにだんだん違ってきてしまいました。「ウマヅラ」というのはお父さんが名付けました。

日本渚の美術協会からのコメント

自然の漂着物と人間が作り出し何気なく捨てられたゴミが見事に融合して、見て楽しい作品に仕上がりました。デザインバランスの良いチョットおちゃめで愛くるしい表情の作品です。

ふれあいコンサート

子どもの明日 応援プロジェクト

日頃コンサートに行く機会の少ない障がいのある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらう目的で、ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげきさんによる手作りのコンサート「ふれあいコンサート」を全国各地の特別支援学校等で開催しています。

29年間で126の特別支援学校等を訪問しました

第1回目のコンサートは1984年に秋田療育園で開催し、2007年の新潟県の小出養護学校で100回目のコンサートを迎えました。29年目をむかえた2012年は、9月24日から9月28日にかけて昨年に引き続き、東日本大震災で被災した福島、宮城、岩手県の特別支援学校5校で開催しました。これまでの累計訪問学校数は126校になりました。

コンサートでは、鳥塚しげきさんを中心に「幸せなら手をたたこう」、「ドレミのうた」や「思い出の渚」などが披露されました。子どもたちも手作り楽器でリズムを取ったり、歌ったり、踊ったり、また舞台に出てきて、いろいろな動物の鳴き声をしてみたりと、どの会場でも大変盛り上がりました。

なお、「ふれあいコンサート」は従業員の募金をもとに運営されており、会場設営から音響機器の設置等の準備も従業員が行なっています。



子どもたちの笑顔のために歌い続けます

私は音楽の力を信じています。音楽には素晴らしい力があります。悲しい時には慰めてくれ、楽しい時には心をウキウキさせてくれます。私は子どもたちを楽しませるだけではなく、音楽の持つ力で子どもたちに勇気や希望を持ってもらえるよう、この29年間コンサートを続けてきました。私のパフォーマンスに子どもたちは満面の笑みで応えてくれます。これからも子どもたちの笑顔のために歌い続けます。



歌手
鳥塚しげき氏

あしながチャリティー&ウォーク

子どもの明日 応援プロジェクト

あしなが育英会のご協力のもと、全社共通の社会貢献活動として「あしながチャリティー&ウォーク」を開始しました。当社が独自に主催する「あしながMYウォーク」の開催、あしなが育英会(あしながPウォーク10実行委員会)が全国各地で開催する「あしながPウォーク10」への参加、そしてチャリティー募金を通じて、遺児支援に取り組んでいます。

約3万6千人の従業員等が参加しました

2年目となる2012年度は9～12月に、全国延べ57カ所で昨年を大きく上回る約9千人がウォーキングとチャリティー募金を行なうとともに、当日ウォーキングに参加できなかったチャリティー募金参加者を含め、総勢約3万6千人の役員・従業員等(※)がこの活動に参加し、遺児支援に取り組みました。

・※この活動には、東京海上日動火災保険株式会社のみなさま(約1千人)をはじめ、活動趣旨に賛同いただいた社外の方(当社従業員の家族、知人・友人などにも参加いただきました)。



全国各地でチャリティーウォークを実施





函館



東京



千葉



宇都宮



長野



福井



名古屋



大阪



長崎

チャリティー募金の寄付を通じ被災地支援

2012年度の活動を受けて、2013年1月には、東日本大震災で親をなくした子どもたちの進学支援(奨学金等)、心のケア支援(東北レインボーハウスの建設等)等を目的にあしなが育英会にチャリティー募金1,615万6,350円を寄付いたしました。



「黄色いワッペン」の贈呈

子どもの明日 応援プロジェクト

1965年以来、新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」を贈呈しています。

新入学児童の交通安全を願って

48回目となった2012年度は、全国約111万人の新入学児童に「黄色いワッペン」を贈呈、これまでに配られたワッペンは累計で約5,886万枚となりました。長く継続している事業のため、親子二代にわたって着用しましたとの声が多く聞かれるようになりました。

「黄色いワッペン」には、2012年度の交通安全スローガン子ども部門最優秀作「いそいでも かならずかくにん みぎひだり」が印字され、子どもたちの交通安全意識を育むとともに、保護者やドライバーの方々の注意を喚起しています。

また、「黄色いワッペン」は登下校中に発生した交通事故を対象とした、保険金額が最高50万円の交通事故傷害保険が付されています。

3月から4月の入学シーズンに全国各地で贈呈式が開催されました。

共同実施団体：(株)みずほフィナンシャルグループ、(株)損害保険ジャパン、第一生命保険(株)



チャリティーイベント

子どもの明日 応援プロジェクト

2001年から愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを毎年、公益財団法人東京YMCAと実施しています。

2011年は東日本大震災復興支援を目的に、5月23日丸の内マイプラザホールにおいてチャリティーライブ「音楽は元気の素っ!」を開催しました。

当日は、当社の社会貢献活動「ふれあいコンサート」に出演している鳥塚しげきさん(ザ・ワイルドワウンズ)、小松久さん(ビレッジシンガーズ)、歌手のまきみちるさんが熱演しました。約250人の観客からは、「日頃のストレスも吹き飛び、元気がもらえるコンサートだった」「生のエレキギターやドラムスの演奏は迫力があつた」などの感想がありました。

なお、当日の入場料と会場で行なったチャリティー募金の合計292,080円は東京YMCAの被災地復興支援活動に寄付いたしました。また、「被災地の子どもたちに文房具をお届けしよう」との呼び掛けにも多くの方に協力いただいた結果、ダンボール8箱分の文房具を東京YMCAを通じ、被災地の子どもたちにお届けしました。



Hello! Baby 奨学金プログラム

子どもの明日 応援プロジェクト

明治安田生命は、子どもたちの健全育成を目的とした社会貢献活動を続けていますが、その一環で、とくに少子化社会対策に資する活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度(「Hello! Baby 奨学金プログラム」)」を支援しています。

助産師をめざす人を支援

少子化がいつそう進展するなか、周産期(分娩周辺期)の医療安全に向けて、国や地方自治体においてさまざまな対策が進められていますが、とりわけ産婦人科・産科医師の減少、助産師の絶対数の不足など産科医療スタッフの確保が大きな課題となっています。

こうしたなか、当社は、公益社団法人日本助産師会が実施する、助産師をめざす人のための奨学金制度の趣旨に賛同し、「Hello! Baby 奨学金プログラム」として、こども保険の契約件数に応じた金額を、毎年、当社経費のなかから寄付しています。

この奨学金を通じて、ひとりでも多くの助産師が誕生し、妊婦の方がどこにいても、より安心でより安全なお産ができる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

- 対象保険商品
(現在、販売中の商品)



なお、上記に加え、これまでに当社が販売したすべてのこども保険の有効中の契約件数を対象とします。



日本助産師会の声

助産師不足が深刻な現在、このプログラムは、学生の福音となっています

明治時代から産婆として地域の母子保健に貢献してきた助産師は、昭和26年の7万7千人から現在は3万人台と、大きく減少しましたが、一方で育児不安から産後うつになる人や子ども虐待の増加など、出産・子育てを取り巻く環境は、助産師を必要としています。

産科医師不足が社会問題になっていますが、助産師不足も深刻です。こうしたなか、助産師学生への修学支援制度は重要であり、貴社のプログラムは勉学に専念する助産師学生の福音となっています。



公益社団法人 日本助産師会
会長 岡本 喜代子 氏

●「公益社団法人日本助産師会」は、1955年(昭和30年)の創立以来、母子保健推進のため全国の助産師の連携をはかり、助産師業務の水準を維持し、その改善・向上につとめている団体です。

●助産師の就業者数は、近年徐々に増加し、約3万2千人(2010年12月現在)となっていますが、1分娩施設あたりの必要人員を勘案すると大幅な増加が必要とされています。

少子化対策の取組み「Hello! Baby 奨学金プログラム」が「第5回キッズデザイン賞【優秀賞】」を受賞

NPOキッズデザイン協議会主催、経済産業省後援による「第5回キッズデザイン賞(2011年)」において、当社の少子化対策に資する社会貢献取組み「助産師育成支援『Hello! Baby 奨学金プログラム』」が、“子どもたちを産み育てやすいデザイン”と認められ、「優秀賞(ソーシャルキッズサポート部門)キッズデザイン協議会 会長賞」を受賞しました。

この受賞は、「少子化対策の重要な視点として、助産師などの産科医療スタッフの確保という命題に取り組んだ意欲的な試みである。助産師をめざす学生は実習等によって費用もかかり、時間的な融通もききにくいいため、こうした奨学金制度は社会的な意義は高い。保険という本業を通じたCSRの取組みとして、出産・子育てに寄与する点を高く評価する」との観点で選考いただいたものです。

当社は、「子どもの健全育成への貢献」を社会貢献活動の重点分野と位置づけ、さまざまな活動を行なっていますが、この受賞により、2010年の“子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン”としての「子どもの命・安全を守る地域貢献活動『地域安全マップづくり教室』」の受賞とあわせ、「2部門(2年連続)での優秀賞」受賞となりました。

▶ 「子どもの命・安全を守る地域貢献活動『地域安全マップづくり教室』」の受賞 P95

「キッズデザイン賞」とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の3つを顕彰する制度です。子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動など幅広い分野を表彰の対象としており、受賞作品には、「キッズデザインマーク」の使用が認められます。



全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛

子どもの明日 応援プロジェクト

当社は1997年より「全国小中学校環境教育研究会」が主催する絵画コンクールに協賛しています。

本コンクールは、“みんなでつくろう住みよい町”、“みんなで守ろう大切な自然”をテーマに、全国の小中学生から環境に関する作品を募集しています。

2012年は小学校からは49校1,280作品、中学校からは60校594作品の計1,874作品の応募がありました。

当社からは「小学校の部」および「中学校の部」の各1作品に明治安田生命特別賞を贈りました。



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(小学校の部)



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(中学校の部)

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

子どもの明日 応援プロジェクト

三菱広報委員会(当社は三菱グループの一員として参加)では、1990年からアジアの子どもたちの相互理解と交流を目的に、「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を実施しています。

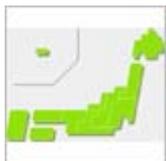


アジア各国の子どもたちから『絵日記』を募集し、その作品を通してより深くアジアを理解することや、アジアの子どもたちの国際交流の輪を広げることを目的に実施しています。

地域社会への貢献をめざして

明治安田生命は、地域に根ざした良き企業市民として地域とのパートナーシップを大切に、地域とともに発展することを願っております。そして会社はもちろん地域の住民の一人である従業員もボランティア活動を通して地域の活動に参画しています。

全国各地の地域貢献活動



全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開しています。

従業員募金による支援・活動 (明治安田生命社会貢献活動基金)



従業員の募金を原資としており、地域貢献活動のための活動や人道上の災害支援のための寄付を行ないます。

明治安田生命 関西を考える会



関西の歴史・文化に関する冊子を毎年刊行しています。

配食サービス市民団体助成制度



全国の市民参加型配食サービス団体に資金助成を行なっています。

ジョン万次郎記念センターの支援



日米の市民の草の根交流を推進する「ジョン万次郎記念センター」を支援しています。

スペシャルオリンピックス日本の支援



知的発達障がいのある人たちにスポーツ活動を提供し社会参加を応援しているスペシャルオリンピックス日本を支援しています。

全国各地の地域貢献活動

全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開しています。

従業員参加による活動

当社は、「行動規範」のひとつに“地域社会への貢献と環境への配慮”を掲げ、所属ごとに、従業員が積極的に運営、参加する社会貢献活動を推進しています。

内容は、地域清掃、献血運動、使用済切手寄贈など身近なものから、ペットボトルキャップ回収などお客さまにもご協力いただいた活動、老人ホームへの訪問・寄贈、障がいのある方への支援、マラソンボランティア、環境保全活動等々、地域に根ざしたさまざまな活動に取り組んでいます。



東日本大震災復興支援活動

特に2011年度からは、震災からの復興を願い、被災地支援活動を実施しています。2012年度は、明治安田生命労働組合と共同して福島・宮城・岩手の3県で、家屋内外の片付け作業や瓦礫の撤去作業などを行なう復興支援ボランティアに取り組みました。被災地3県に勤務する従業員と、全国各地から参加した従業員、総勢約180人が参加しました。また、原発事故の影響で屋外活動が制限されている地域に住む福島県の子どもたちを放射線量の低い鮫川村に招き、思い切り外遊びをしてもらうNPO法人「あぶくまエヌエスネット」が主催する「ぽんた山元気楽校」の主旨に賛同し、ボランティアとして全国各地から計10回50人の従業員が参加しました。

震災によって被害を受けた地域の一日も早い復興の一助となるよう、今後も継続して支援活動に取り組んでまいります。



ボランティア活動の奨励

こうした所属の自主的な取り組みをより活性化し、従業員の地域・社会貢献活動意識の向上を図るため、年度を通じて、優れた活動を行ない社会的な信頼を高めた所属を表彰する「ボランティア表彰」制度を設けています。2013年5月には社外専門家を加えた選考メンバーが、右の選考基準をもとに総合的に評価し、第4回の表彰を行ないました。

「ボランティア表彰」の選考基準

- 多くの所属員の参加・協力
- 地域社会に根ざした活動(自治体やNPOとの連携等)
- 継続性
- 活動内容の独自性、公益性
- その他(地域からの評価等)

「第4回ボランティア表彰(2012年度)」受賞所属の活動

美しい自然の大切さを伝えるホテル鑑賞会 <大賞 金沢支社>

地域の子どもに環境保全の大切さを実感していただくため、「石川ホテルの会」の協力を得て、金沢市内9カ所でホテル鑑賞会を実施しました。招待した400名の参加者には、ホテルの生態や鑑賞マナーについての勉強会や、ホテルの絵コンクールも実施しました。これらの活動は冊子にまとめ、支社・各営業所の店頭でお客さまが閲覧できるようにしています。営業所やお客さま宅、福祉施設等にグリーンカーテンを設置し育てる過程で自然植物・昆虫にふれあう機会など自然環境保護の意識が高まりました。また、「公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本」での募金活動「エール募金」で募金者と障がいのあるアスリートに届けられるミサンガ451本を作成し、寄贈しました。



VOICE

地域を巻きこんだ自然環境保護活動と、全組織でのボランティア活動を実施

2012年度は、より地域社会に密着した取り組みができないかを話し合い、2010年より取り組んでいる「ホテル鑑賞会」や「ホテルの絵コンクール」の積極的な推進・開催に加え、各所属で独自の活動を行なってきました。近隣の定期的な清掃、小学校へのベルマーク寄贈、福祉施設でのイベント手伝いや古タオル寄贈、福祉施設の手作りクッキーを社内バザーで販売するなど、近隣地域とのかかわりを大切にしながら活動し、関係団体や地域の方に感謝のお言葉をいただきました。またグリーンカーテンを営業所や福祉施設に設置し、生育過程において近隣住民や入所者とのふれ合いの場を持つこともできました。今後も身近な社会に貢献できるよう、地域に根ざした活動に所属員とともに取り組んでいきます。



金沢支社長
中村 暢敬

被災地復興への思いを込めた手作り蠟燭を寄贈 <優秀賞 千代田支社>

東日本大震災被災地復興支援の一環として、所属員がかわいい蠟燭を手作りし、被災地の特別支援学校に寄贈しました。また、台東区主催の「大江戸清掃隊」に継続参加して御徒町駅周辺の清掃活動を実施したり、神田司町町内会のイベントサポートを行なうなど、地域の方々とのコミュニケーションも深めています。



女性と子どもを応援する「Sapporo5リボンス」活動を支援 <優秀賞 札幌支社>

女性と子どもの「自分らしく生きる」を応援する「Sapporo5リボンス」の活動を応援し、購入したピンバッチを所属員が着用してPR支援を進めるとともに、支社ビル内に4台の「寄附付自動販売機」を設置しています。また、イベント参加費等の収益金すべてが難病の子どもたちの夢をかなえるために使われる「チャリティ・ラン&ウォーク」に運営ボランティアとして参加しました。ブックシェアリング活動や障がいのある方たちが手作りしたパン等を販売する「元気ショップ」の応援も継続して実施しました。



あったかふれ愛コンサートを開催 <優秀賞 山口支社>

職員がメンバーである下関フィルハーモニックウインドオーケストラと共催で「あったかふれ愛コンサート」を介護施設で開催しました。毎年続けている「下関海響マラソン」には、運営ボランティアとして所属員66人が参加。また、支社の全所属員がひとり1品を持ち寄る「東日本大震災被災地支援チャリティーバザー」も継続して実施し、岩手県の支援学校に、防災備蓄品1,400品を収益金で購入、寄贈しました。



児童養護施設で季節感あふれるボランティア活動 <優秀賞 融資部>

地域の児童養護施設で毎月のお誕生日会や花火大会、手作りかるた大会などのイベント開催をサポートしています。フリーマーケットの収益金や募金活動で得た資金から、お誕生日会のケーキやイベントに際してのお菓子を寄贈しています。定期的な訪問を通じて、子どもたちや職員のみなさまとの親密な関係を築きながら、今後もさらなる活動を継続していきます。



老人ホームの方々とクリスマスをお祝い <優秀賞 営業企画部>

地域貢献活動の一環として、老人ホームでのボランティア活動を継続的に実施しています。枕カバーやシーツの交換、所属員全員が参加したメッセージカード作りやクリスマスツリーの飾り付けなども行ないました。その他にも、毎週1~2回、昼休みを利用して使用済切手を裁断し、20万枚以上の使用済切手をNGO団体「ジョイセフ」に寄贈しました。



地域イベントでゴミ分別や清掃活動のボランティア <立川支社>

「八王子まつり」ではリサイクルステーションの運営・管理や会場内の清掃活動などのボランティア活動に参加しました。同様に「武蔵村山市民まつり」でも、ゴミ分別や清掃活動を行なって、イベントを支えました。また、青梅市主催の「おーちゃんフェスタ2012」では、青梅消防署に協力いただき、起震車を使った地震体験を実施。地域や世代を超えて会場を盛り上げました。



「自然の番人宣言」活動とスポーツイベントボランティア <釧路支社>

2006年に宣言され、賛同企業第一号として参画している「自然の番人宣言」活動を進めるとともに、清掃イベントへのごみ袋の寄贈、標茶町クリーン作戦や釧路湿原クリーンデーへも積極的に参加しています。地域のスポーツイベントにも「釧路湿原全国車いすマラソン大会」の沿道整備ボランティアとして参加し、選手へのエールも送りました。



東日本大震災被災地支援プロジェクトを継続実施 <神戸支社>

「東日本大震災被災地支援プロジェクト」を継続して行ない、支社主催のセミナーや地域のお祭りなどで、被災地の障がい者の自立支援を目的とした施設の物品販売や募金ボランティアを6回実施しました。また、「神戸ルミナリエ」「明石どんとこいまつり」「はっぴ〜カーニバル」などのイベントにも参加し、清掃、道案内、運営委員会への参画を含めたボランティア活動に取り組みました。



石巻被災地支援ボランティアと手話朝礼の実施 <お客さま相談センター>

2011年に続き、2012年にも2回、NPO法人「地域の芽生え21」主催の石巻被災地支援ボランティアに参加。石巻市立大川小学校でのわすれな草の花壇づくりや、周辺の草刈りを行ないました。その他にも、病気の子どもとその家族が利用できる滞施設ドナルド・マクドナルド・ハウスへの日用品の寄付や、店頭で聴覚が不自由な方が来店された時のために2011年から手話朝礼を年45回実施するなどの活動も続けています。



トイレチェックボランティアと伴走ボランティア <広域組織法人部>

NPO法人「Check」による、外出時の「車いす対応トイレ」の場所等の情報収集と提供を目的としたトイレチェックボランティアに、2009年から継続して多くの所属員が参加し、これまでの活動に対する感謝状も主催するNPO法人よりいただきました。また、日本盲人マラソン協会が主催する「JBMA神宮外苑ロードレース」に視覚障がい者の伴走ボランティアとしても参加しました。



社会福祉法人と協力した障がい者支援活動 <エムワイ商事>

障がい者自立支援を目的としている社会福祉法人の障がい者による制作物の販売会を2回実施しました。障がい者支援活動としては、販売会だけでなく、うさりんミニタオルの寄贈や、同団体へ訪問してカサブランカの球根を寄贈し、施設の子どもたちと一緒に球根を植えた活動など、一つの団体と交流を深めながら、さまざまな支援活動を継続的に行なっています。



中学校におけるキャリア教育への支援

職場体験学習の実施

中学校のキャリア教育の一環として「職場体験学習」の積極的な受け入れを行ない、お客さま対応業務などの体験学習を実施しています。2012年度は6年目になる中村中学校(東京都)のほか、音羽中学校・佃中学校(東京都)など、11校から中学生を迎えました。



お客さま相談センターでの
仕事体験の様子



事務サービス企画部での
コール業務体験の様子

「保険授業」の実施

職場体験学習では、初日のカリキュラムのひとつとして「保険授業」も実施しています。これは、学校教育では学ぶ機会の少ない「保険のしくみ」などについて、中学生にも身近な事例やイラストを交えながら学んでいただこうとしているもので、2009年から継続的に行なっています。



保険授業(講師:企画部職員)の様子

スポーツ教室の開催

当社の運動部(硬式野球部、テニス部、ボート部、アメリカンフットボール部)では、地域貢献や子どもの健全育成を目的にスポーツ教室を各地で行なっています。



静岡県沼津市の小・中学生を対象とした野球教室の開催



聴覚に障がいのある子どもたちのためにテニス教室の開催



長野県下諏訪町漕艇場にて中学生・高校生を対象としたボート競技講習会の開催



福島県伊達市の小学校でのフラッグフットボール教室の開催

※活動内容および所属名等は2012年度のものに掲載しています

従業員募金による支援・活動(明治安田生命社会貢献活動基金)

地域貢献活動を支援する目的で、従業員による募金を原資とした明治安田生命社会貢献活動基金を2004年に創設しました。明治安田生命社会貢献活動基金は、従業員が参加している非営利団体への助成や国内外の人道上の災害救援、復興支援のための寄付を行なっています。

従業員が参加しているボランティア団体への資金援助の事例

「水都大阪を考える会」の葦舟による活動資金を寄付

大阪を「水の都」に再生しようと活動する市民団体です。水運の歴史を探るためのフィールドワークや、淀川で刈った葦を組み立てて古代の葦舟を再現し川下りを行ない、市内の河川や運河の活性化をめざす活動を行なっています。今回、葦舟で川下りを行なうために必要な費用の一部の助成を行ないました。



「子どもネットワーク可部」に遊具を寄付

特定非営利活動法人「子どもネットワーク可部」は、広島県で子どもたちの生活体験や芸術活動を豊かにするために、鑑賞事業やワークショップのほか遊び体験事業としてファミリーキャンプやプレーパークを行なっています。今回、アート体験ワークショップに必要な遊具の購入資金の一部を助成しました。



「日本児童家庭文化協会」のイルカセラピー開催費用を寄付

財団法人「日本児童家庭文化協会」では難病や障がいを抱える子どもたちのためのイルカセラピー効果に基づいたプログラムを提供しています。イルカへのエサやりやふれあいを通じリラックス効果を得て対人関係改善のきっかけになっています。今回、2011年9月に静岡県伊東で開催されたイルカふれあいツアー開催費用の一部を寄付しました。



「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン」のチャリティーイベント費用を寄付

一般社団法人「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン」では難病と闘う子どもたちの夢をかなえるお手伝いをしています。広島支部では、その資金作りのためにチャリティーコンサートやチャリティー駅伝大会等を行なっており、今回、チャリティー映画会の開催費用の一部を寄付しました。



「田毎の月」棚田保存同好会へ棚田整備用品寄付

「姨捨の棚田(田毎の月)」の地域は国指定の名勝であり、信州姨捨「田毎の月」棚田保存同好会は、棚田の美しい風景を守り、土に親しみ美味しいお米を作ることを目的に、ボランティアで棚田の保存活動を行なっています。

今回、棚田の保存活動を支えるため棚田を整備するための草刈り機の購入費用を寄付しました。



人道上の災害救援、復興支援のための寄付の事例

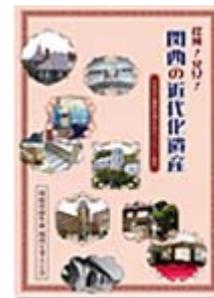
2010年に発生した山口県、広島県、鹿児島県大雨災害に対し、被災地支援・復興のための義援金の寄付を行ないました。2011年には新潟県、福島県、奈良県、三重県、和歌山県で発生した大雨災害、台風災害に対し義援金を寄付しました。



明治安田生命 関西を考える会

1976年以来、地域貢献活動の一環として「ふるさと関西を考えるキャンペーン」を行ない、毎年、関西の歴史・文化に関する冊子を刊行してきました。

活動38年目を迎える2013年は、「探検!発見!関西の近代化遺産」と題して冊子を刊行しました。明治以降の日本の近代化の過程で造られた大阪市中央公会堂、御堂筋、大丸心齋橋店、琵琶湖疏水、同志社大学、北野異人館、生野銀山、旧JR奈良駅舎、紀ノ川橋梁などの関西の建造物や施設216件について、建物自体の価値はもちろん、歴史的背景や携わった人々の興味深いドラマを絡めて、その魅力を紹介のうえ、保存・活用問題など今後のあり方にも触れてみました。



配食サービス市民団体助成制度

配食サービス市民団体助成制度の実施

高齢化の進展に伴い、地域市民が主体的に行なう福祉活動の必要性はとみに増えています。とりわけ食事サービス活動は「生」に密着する食の問題を通してコミュニティを形成する重要な活動といえます。

当社では2001年度より、全国で活動している市民参加型の配食サービス団体に対して、毎年、全国老人給食協会の審査に基づき、資金助成を行なっています。既存の市民参加型配食サービス活動の安定と向上、および各地に新しい活動団体を増やしていくことを支援する目的に活動に必要な備品購入資金および活動の立ち上げ資金の助成を行なっています。

2012年度は助成先に全国各地の10の市民団体を決定、助成を行ないました。過去12年間で118団体へ助成しました。



全国食事サービス活動セミナーの開催

市民参加型の食事サービス団体が集い、食事サービスの質の向上、情報の交換、グループ同士のネットワーク作りを目的として、全国食事サービス活動セミナーを開催しています。

2011年度は12月3日に宮城県仙台市にて「災害時における高齢者の食を考える」をテーマに開催しました。

当社では、質の高い食事サービスの普及を目的に1998年度の第1回セミナーより支援しています。



ジョン万次郎記念センターの支援

当社は、財団法人「ジョン万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター」を支援しています。同財団は1992年に設立され、日米両国の市民が草の根レベルで意見交換をしたり、交流を行なうことを主な目的として事業を推進しています。毎年交互に日米のホスト都市や地域で交流プログラムを開催します。2012年8～9月には、第22回日米草の根交流サミットノース・テキサス大会が実施されました。



スペシャルオリンピックス日本の支援

当社は、知的障がいのある人たちにスポーツトレーニングやその成果の発表の場としての競技会への参加を通じて、社会参加を応援する公益財団法人スペシャルオリンピックス日本を支援しています。

支援にあたっては、フレンドシップスポンサーとして行なう資金面での支援のほかに、スペシャルオリンピックス日本や全国各地にある地区組織が行なう活動に、従業員がボランティアとして参加したり、チャリティーイベントの後援等を行なっています。

・ ボランティア活動への参加

募金協力者とアスリートの双方に贈られるミサガづくりボランティアや2012年2月に開催された冬季ナショナルゲーム・福島開催に向けたチャリティーイベントの運営ボランティア、そして冬季ナショナルゲーム・福島の大会ボランティア等に参加しました。



・ チャリティーイベントの後援

2012年11月には、冬季世界大会・ピョンチャン日本選手団派遣費用等の資金集めのためのチャリティートークショーが丸の内MY PLAZAホールにて開催されました。当社は本イベントを後援するほか、企画・運営面でも職員がボランティアで参加しました。



関連財団等の活動

(公財)明治安田厚生事業団の活動



国民の健康増進事業を推進することにより学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。

(公財)明治安田こころの健康財団の活動



おもに「こころの問題」をテーマに乳幼児から高齢者までを対象として幅広い活動をしています。

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動



音楽分野および地域の伝統文化分野における人材の育成を支援しています。

(株)明治安田生活福祉研究所による総合生活保障の調査研究

年金、健康、医療、介護等を含むライフプランニングを中心とした調査研究を行なっています。

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団の運営への参加

三菱グループで設立、運営している財団で、高齢化社会に関わる調査研究を行なっています。

(公財)明治安田厚生事業団の活動

1962年6月に設立された当財団は、社会の福祉に貢献するために、永年にわたり健康課題に関する科学的根拠を得るための研究とその成果を普及啓発すべく活動を行ってまいりました。そして、設立50周年を迎えた2012年には内閣府から公益認定を受け、公益財団法人として新たなスタートを切りました。

現在では、体力医学研究事業、ウェルネス事業、そして健康調査事業の3部門が連携し「三位一体」となって国民の健康増進事業を推進することにより学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。

なお、体力医学研究所では東日本大震災で被災された方々の「こころのケア」、ウェルネス開発室、新宿健診センターでは新宿区に避難された方々を対象に新宿区のご協力を得て『まごころ健診』を今後とも継続するとともに、被災者のみなさまへ出来る限りの支援を行なってまいります。

体力医学研究事業(体力医学研究所)

国民の健康に関わる諸問題の解決を目指して調査研究を実施するとともに、その成果が広く一般に役立つよう普及活動に努めています。近年では「運動とメンタルヘルス」をメインテーマに、運動を活用した心身の健康増進に関する研究活動を推進しています。

さらに、健康科学分野に関わる若手研究者の支援を目的に、国民の健康増進に役立つ研究への助成を実施しています。

ウェルネス事業(ウェルネス開発室)

体力医学研究事業、健康調査事業の成果を活かして、身近な健康づくりをサポートするプログラムを開発・提供しています。また、自治体や企業、団体等への講演会や講習会等を通じて、科学的な根拠に基づいた健康づくりを提案し、社会に貢献できる健康づくり普及啓発活動を行なっています。

健康調査事業(新宿健診センター)

心と身体の両面から得られる各種調査・人間ドックのデータを活用した調査研究およびその知見の普及啓発を行なっています。体力医学研究事業ならびにウェルネス事業との三位一体による「健診からはじめる健康づくり」をサポートし、疾病の予防・改善をめざしています。

公益財団法人 明治安田厚生事業団の活動



(公財)明治安田こころの健康財団の活動

1965年3月に設立された当財団は、当時、手薄であった精神面からの子どもたちの健全育成を通じて社会に貢献することを設立の趣旨として、子どもの育成に関する各種相談、専門家育成のための研修講座の開催および研究助成を中心に事業を展開しております。

集中講座、夜間講座

教育、保育、心理、相談、医療、保健、司法などの専門分野で活躍する専門家ならびに専門家をめざしている大学院生、大学生などを対象として、「こころの臨床」「発達障害」「子ども」の三つの領域で集中講座(土・日開催)、夜間講座(毎週曜日を決めて、4~6回のシリーズ)を開催しています。

子ども療育相談センター

自閉症をはじめとする発達障がいのあるお子さんへの一人ひとりに応じた療育をご家族と協力してすすめ、成長やライフステージにあわせた継続的な支援を行なうとともに、学校や福祉機関への支援も行なっています。

すこやか育成相談室

お子さんの成長過程での心理的なつまづきや困難が生じたときに、より健やかな成長を支えていくことをめざしてお子さんやそのご家族との相談を行なうとともに、教育機関や医療機関、行政機関との連携も行なっています。

研究助成

子ども(乳幼児から思春期・青年期まで)、家族・家庭および高齢者の諸問題についての精神保健・福祉領域の基礎的、臨床的な研究に対し助成を行なっています。また、その研究成果を「研究助成論文集」として刊行しています。

広報・支援活動

1) 「コミュニケーション支援ボード」の普及推進

知的障がいや自閉症の人たち、外国人など話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある人たちへの支援ツールとして、駅やコンビニ、地方自治体等で備えおかれ着実に全国に広がるなか、2008年には全国の交番やパトカーに「警察版コミュニケーション支援ボード」が配置されました。また、2011年3月には「救急用コミュニケーション支援ボード」が東京都内の消防署、救急関係車両に配置されました。



2) 知的障がい・発達障害の人たちのための就労支援

障がい者の就労への取り組みは、制度面だけでなく年々社会的な広がりを見せ、オフィスビルや工場、店舗などで働く人たちが増えています。言葉によってイメージすることに困難さのある障がい特徴に配慮し、理解を助けるためにイラストを多用した当事者への支援ツールを、プロジェクトを立ち上げて制作してきました。

①「見てわかる社会生活ガイド集」(2013.2.1発行)

前著の広がりとともに、現場や当事者の方の声にさらに耳を傾けてみますと、安定して働き続けるためには、生活やお金の管理、余暇活動のほか、消費トラブルなどへの対応なども重要であることが分かってきました。「みんなの体験から学ぶ」「ひとり暮らし便利帳」を中心に、人生という時間軸にあわせて紹介しています。



②「見てわかるビジネスマナー集」(2008.12.24発行:13刷)

継続して働き続けるためには、仕事の技術や知識があるだけでなく、一人の社員として、また一人の社会人としてそれにふさわしいマナーを身につけることも大切ですが、こうした相手の気持ちを推し量るコミュニケーション能力に困難があります。そこで、マナー違反された時の相手の気持ちなどをイメージしやすいようにイラストなどを多用して工夫し紹介しています。

3) 「自閉症課題百選」を発行(2009年)

教育計画や指導方法が難しいとされてきた自閉症の教育・指導方法について、その障がい特性を考慮に入れた効果的な取り組みを、具体的な課題アイデアの豊富なカラー写真で紹介しながら新たな提案を発信しています。

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動

1991年6月に設立された当財団は、生活の質的向上とわが国文化の発展に寄与することを目的に、音楽における人材育成および地域の伝統文化の保存維持ならびに後継者育成に対する助成等を行なっています。

クラシック音楽分野での助成

若手クラシック音楽家の海外留学を支援しています。2012年度には新たに4人が公募で選ばれ、これまでに122人が「海外音楽研修生費用助成制度」を活用して欧米に留学をしました。現在では、この中から第一線で活躍している多数の音楽家を輩出しています。

また、音楽コンクール開催への助成として、「第81回日本音楽コンクール」作曲部門最優秀者への賞の贈呈を実施しました。

地域の伝統文化分野に関する助成

民俗芸能および民俗技術等、地域の伝統文化の継承活動、とくに後継者育成に必要な諸活動を支援しています。

2012年度には新たに、沖縄県の「高安自治会(籠ゴウ祭)」等43件と東日本大震災被災地域に対する11件の助成を行ない、これまでに921件の伝統文化へ助成を行なっています。

本助成を契機に再び活発な活動を開始した伝統文化もあります。



(株)明治安田生活福祉研究所による総合生活保障の調査研究

1991年に設立された当研究所は、急速に少子高齢化が進行するなか、高齢者福祉、医療、介護、健康、また年金や就労を含むライフプランニング等の分野を中心に、調査研究を行なっています。

その成果は、中央官庁からの調査研究の受託、地方自治体の各種福祉関係計画の策定支援、健康保険組合の保健事業への支援、企業福祉に関するコンサルティング、調査報「生活福祉研究」の発行等を通じて社会に還元しています。

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団の運営への参加

1993年6月に三菱グループ28社とともに設立した当財団は、民間の立場で高齢社会の諸問題に関する実践的な調査・研究活動を行なっており、当社はその運営に参画しています。

具体的には、しあわせで活力ある長寿社会の実現に向けて(1)高齢社会における健康、経済、生きがいに関する調査・研究、(2)高齢化社会における諸問題について意識の啓発活動・活動成果の普及を通じて、問題解決を提言しています。

